

[成果情報名]2005年の山形県におけるコイヘルペスウイルス病の発生状況

[要 約]山形県において発生から2年目となったコイヘルペスウイルス病は、6月～10月までの間に16件確認され、発生件数は前年の約20%に減少した。また、発生期間は前年とほぼ同様で、発生場所も個人池での発生が多く半数以上を占めた。

[部 署]山形県内水面水産試験場生産開発部

[連絡先]TEL 0238-38-3214

[成果区分]政

[キーワード]コイ、コイヘルペスウイルス病、魚類防疫

[背景・ねらい]

コイヘルペスウイルス病の経年的な発生時期や発生場所を調査して、今後の防疫対策や防疫指導に役立てる。

[成果の内容・特徴]

1. 2004年6月4日に本県において初めてコイヘルペスウイルス病（以下KHVD）が確認され、本年は初発から2年目となった。
2. KHVDの発生は6月14日から10月20日までの約4ヶ月間みられ、計16件が確認された。発生件数では前年の約20%に減少した（表1）。
3. 特に天然の湖沼河川や用水路では激減しており、感染耐過魚の増加によるものと推測される。
4. 発生件数は減少したものの業者池や個人池においては、庄内地区（酒田市）や最上地区（鮭川村）、村山地区（尾花沢市、東根市、山形市）、置賜地区（白鷹町、長井市、米沢市）と広範囲に発生しており、依然として感染源（ウイルス保有魚）は広く存在しているといえる。また、KHVDは県内の8市町村で発生した（前年は17/44市町村）。
5. 発生場所については、前年同様個人池での発生が多く、全体の62.5%を占め、次いで養殖・加工・釣堀等の業者が25.0%、天然の湖沼河川や用水路と公園や学校の池や堀がいずれも6.3%であった（図1）。
6. 前年同様、感染経路を明らかにすることは困難であったが、感染個体との接触や汚染された用水を介しての感染が想定された。

[成果の活用面・留意点]

1. 発生件数そのものは減少しているが、依然として感染源は広く存在することが示唆されるので、今後とも防疫対策を継続する必要がある。

[具体的なデータ]

表1 2005年の山形県における月別・発生場所別のKHVD発生件数

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	前年件数 (前年比%)	本年件数 の構成比%
養殖・加工・釣堀 等業者	2	1	1				4	6 (66.7)	25.0
天然湖沼河川や 用水路		1					1	16 (6.3)	6.3
公園や学校等の 池や堀			1				1	6 (16.7)	6.3
個人池	1	4	2	1	2		10	41 (24.4)	62.5
計	3	6	4	1	2		16	69 (23.2)	100
前年件数 (前年比%)	12 (25.0)	11 (54.5)	32 (12.5)	9 (11.1)	4 (50.0)	1 (0.0)	69 (23.2)		

注1:確定診断の結果が陽性と判定された日を発生日とした。

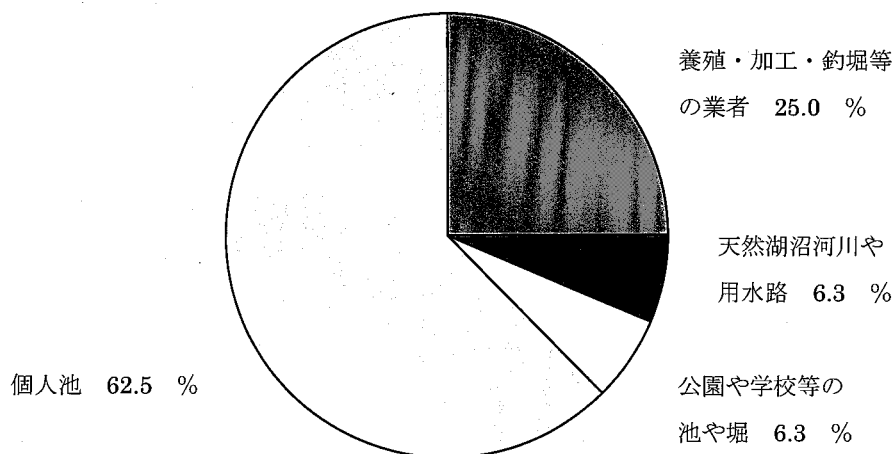


図1 発生場所別の KHVD 発生状況

[その他]

研究課題名：増養殖技術指導

予算区分：県単

研究期間：平成17年度（平成15～19年）

研究担当者：茂木省三、高橋伸明、大川恵子

発表論文等：